



株主通信 Vol.20

2012年3月期 第2四半期 2011.4.1~2011.9.30

INSIGHT & INFORMATION



株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION



ネットシェイプ事業

技術・強み

当社は、高精度、高強度が求められる自動車部品を一発のプレスで成形できる精密鍛造金型の開発、生産を行っています。その核となる技術「ネットシェイプ」は、金属素材を削らず、熱も加えずに複雑な形に仕上げる理想の加工技術です。ネットシェイプを導入すれば、材料は切削加工の3分の1にまで削減でき、生産速度は従来の5～10倍まで高まるなど、生産効率が大幅に向上します。

当社は、精密鍛造金型の生産のみならず、その研究開発から設計、さらに精密鍛造品の部品製造までをカバーするトータルエンジニアリング力で、省資源・省エネルギーなライン作りに貢献しています。

ユーザー

ネットシェイプは、複雑な形状の部品をプレス一発の短時間で作ることができるため、精巧な加工と大量生産の両立が求められるエンジン、トランスミッション、駆動関連などの自動車部品製造で活用されています。

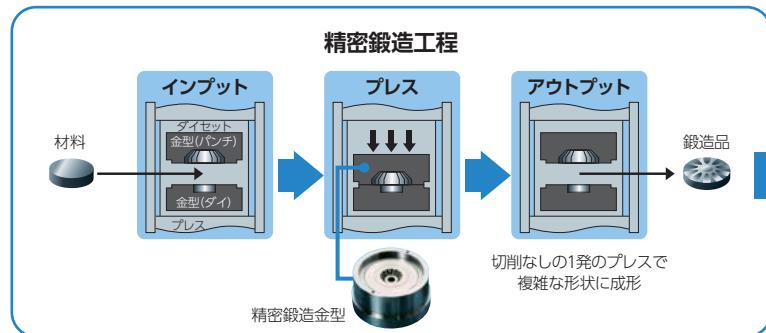
売上高の推移



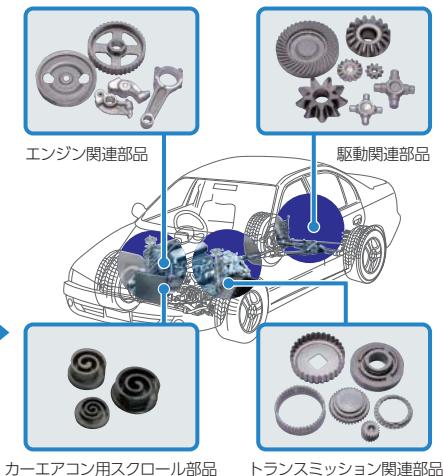
また当社金型の多くは自動車関連企業で使われておりますが、その内訳は、特定メーカーに偏ることなく、すべての国内メーカー系列と取引しているほか、海外メーカーとの取引も増加しています。

さらにカーエアコン用スクロール部品など、自社製金型で生産した自動車精密鍛造部品の生産・販売も行っています。(カーエアコン用スクロール部品の詳細については、10～11ページをご覧ください)

ネットシェイプ事業のバリューチェーン



ネットシェイプで成形できる主な自動車部品





アッセンブリ事業

技術・強み

高度な空気量制御が可能なVGターボチャージャーは、NOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)など有害物質排出を削減し、低燃費やスムーズな加速を実現するため、環境規制の厳しい欧州ではディーゼルエンジンに必須のパーツです。当社グループは、このターボチャージャーの性能向上のカギとなる部品を、独自の組み立て技術により生産しています。

ユーザー

当社グループが提供する部品は、三菱重工業株式会社でVGターボチャージャーに組み込まれ、主に欧州で乗用車に搭載されます。ディーゼルエンジンの普及率が高い欧州では、全新型車に新たな排ガス規制が適用されるなど、厳しくなる環境規制に対応するための開発競争が盛んで、当社グループ製部品も貢献しています。(VGターボチャージャー部品については、10～11ページをご覧ください)



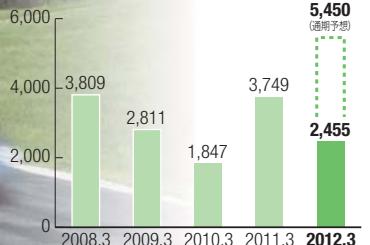
VGターボチャージャー



VGターボチャージャー部品

売上高の推移

(百万円)



フィルタ事業

技術・強み

「ろ孔」サイズ・形状が異なる何枚ものステンレス金網を、独自の積層焼結技術により一体構造化したフィルター製品の開発、生産を行っています。ろ孔の形状はミクロン単位の均一さで、理想的なろ孔構造を実現しています。洗浄すれば再利用できる産業用フィルターは、幅広い過精度に対応可能で、機械的強度、耐熱・耐寒性などにも優れた特性を発揮します。当社グループは、より高性能なフィルター開発のための研究に努めています。

ユーザー

石油、ガスなどのエネルギー分野、プラスチックなどの化学分野から繊維・医薬品・食品分野など幅広い産業で採用されています。厳しい品質基準の下で高い信頼性を要求されるロケットの燃料ろ過にも使用されており、今後は半導体工場で使われるオゾンの廃棄処理など幅広い分野への用途の広がりが期待できます。



積層焼結
金網フィルター



オゾン分解
フィルター

フィルターを納入している 主な産業例



ヘルスケア

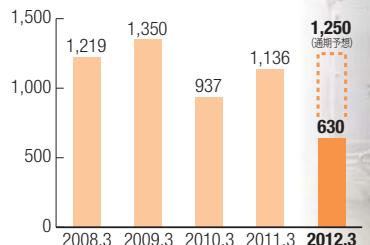
フィルム

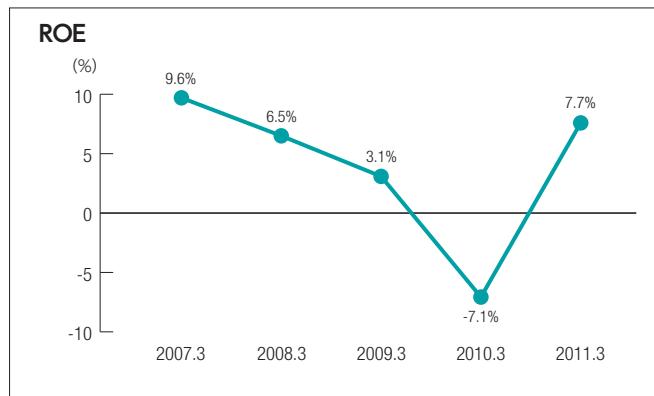
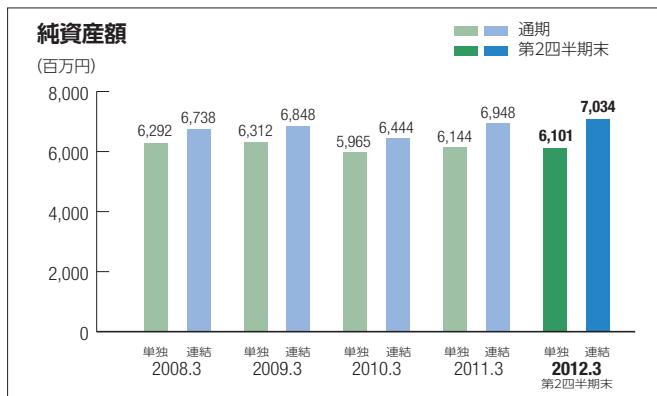
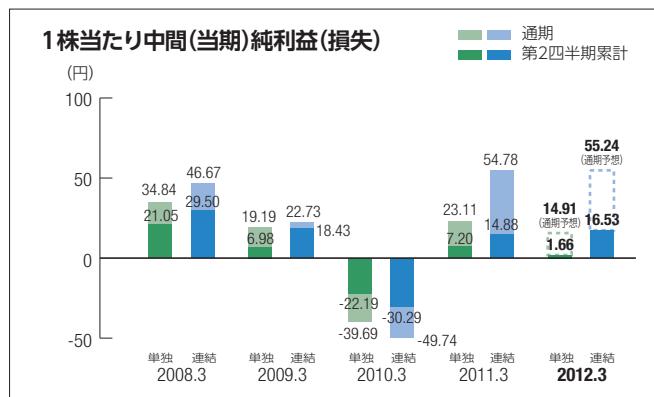
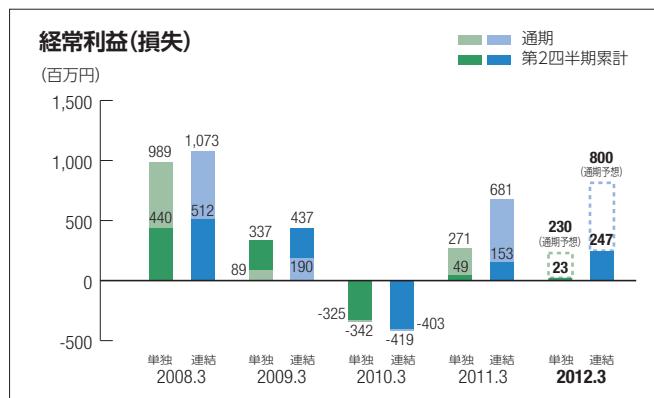
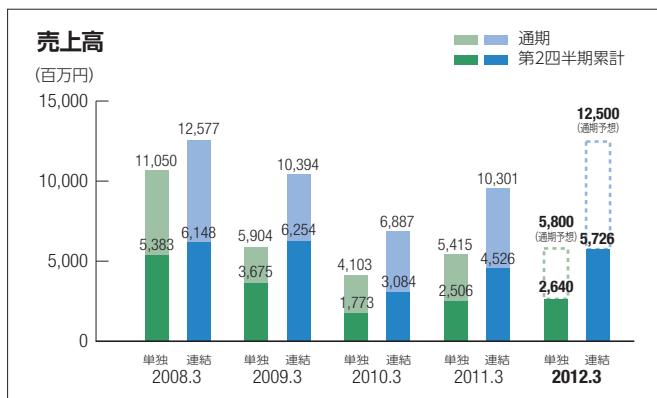
石油・ガス

食品

売上高の推移

(百万円)



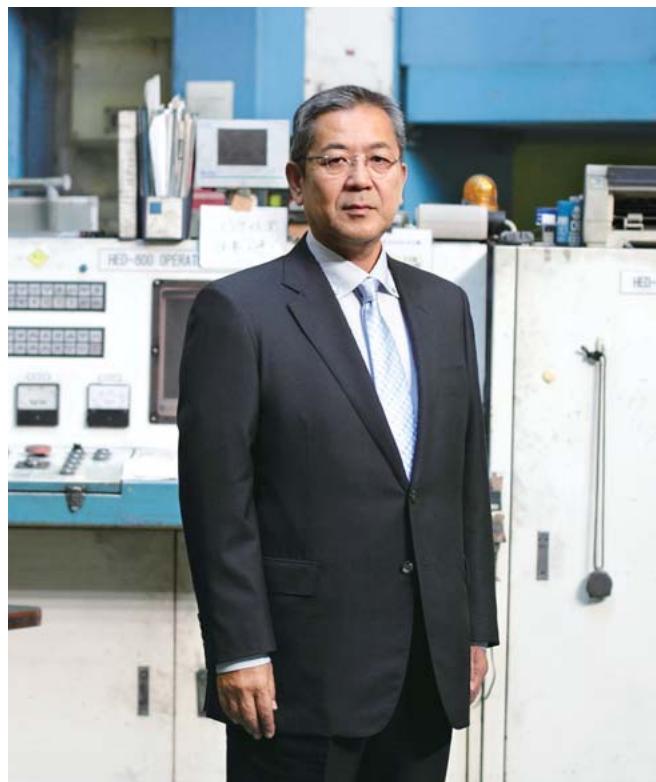


前期に引き続き増収増益を確保、 中期経営計画の進捗も順調です。

2012年3月期の第2四半期累計期間（2011年4月1日～9月30日。以下、上半期）は、一部事業部門において震災の影響を受けたものの、全体としては前期からの成長ペースを維持した結果、増収増益となりました。今期よりスタートした中期経営計画の取り組みも、着実に成果を出しつつあり、強靱な企業体質に向けた転換は順調に進んでいます。ただ、下半期の業績については、タイの大規模洪水による影響が各方面に広がっており、今後の推移を注視しています。

【見直しに関する注意事項】

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



代表取締役社長 古屋 元伸

第2四半期累計実績 (百万円)

		2012年3月期 第2四半期			2011年3月期 第2四半期実績
		計 画	実 績	伸び率 (対前年同期比)	
単 独	売上高	2,570	2,640	5.4%	2,506
	売上総利益	505	446	△10.8%	500
	販売管理費	460	462	2.4%	451
	営業利益	45	△16	—	48
	営業外損益(△は収益)	15	△40	—	△1
	経常利益	30	23	△51.9%	49
	四半期純利益	35	15	△76.9%	65

*百万円未満は切り捨て

		2012年3月期 第2四半期			2011年3月期 第2四半期実績
		計 画	実 績	伸び率 (対前年同期比)	
連 結	売上高	5,760	5,726	26.5%	4,526
	売上総利益	1,040	1,029	19.1%	864
	販売管理費	730	752	6.5%	706
	営業利益	310	277	75.4%	158
	営業外損益	40	30	—	4
	経常利益	270	247	61.1%	153
	四半期純利益	170	149	11.1%	134

Q 上半期の業績について教えてください。

A アッセンブリ事業の大幅な売上が寄与し、全体として増収増益を達成しました。

上半期は、2011年3月11日に発生した東日本大震災により、当社グループの主要顧客先である自動車業界のサプライチェーンが寸断され、自動車生産台数が大幅に落ち込みました。そのため、期初は業績予想を控えざるを得ない状況でしたが、その後の復旧は予想以上に早く進み、現在は震災前の状況まで回復しています。

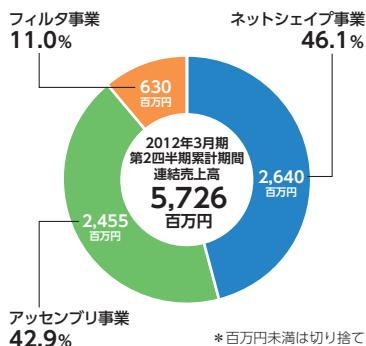
ネットシェイプ事業は、売上高26億4千万円(前年同期比5.4%増)となりました。国内向け金型部門の売上は、震災の影響を受け、第1四半期に大きく落ち込みましたが、第2四半期には、自動車業界の復調を受けて回復しております。一方、精密鍛造品部門においては、スクロール鍛造品が大幅な売上増となりました。

アッセンブリ事業は、売上高24億5千5百万円(前年同期比62.6%増)と大幅な増加となりました。主な要因としては、欧州自動車市場向けVGターボチャージャー部品が、前期に引き続き好調を維持したことがあげられます。旺盛な需要に応える形で、国内とタイの生産拠点NICHIDAI (THAILAND) LTD.の双方で売上を伸ばしました。

フィルタ事業は、売上高6億3千万円(前年同期比23.6%増)と、前期に引き続き好調に推移しました。ヘルスケア製品など国内向けが増加したことに加え、THAI SINTERED MESH CO., LTD.で生産する石油掘削用フィルターに対する需要回復が要因です。

これらの結果、上半期の連結売上高は、57億2千6百万円(前年同期比26.5%増)、連結営業利益2億7千7百万円(前年同期比75.4%増)、連結経常利益2億4千7百万円(前年同期比61.1%増)、四半期純利益1億4千9百万円(前年同期比11.1%増)となりました。

部門別売上高比率(連結)



四半期ごとの売上高・経常利益の推移(連結)



震災の影響で、第1四半期は金型の国内向け売上が減少。ただしアッセンブリ事業、フィルタ事業の増収により全体では前年同期比増収増益。金型の売上も第2四半期に入り回復。

利益面に関しては、金型部門の売上減によりネットシェイプ事業は減益となりましたが、アッセンブリ事業とフィルタ事業の増収があり、連結合計では増益となっています。単独の営業利益については、当初予定の営業利益4千5百万円に対して、1千6百万円の損失を計上しております。これは、ネットシェイプ事業において、経済産業省の戦略的基盤技術高度

支援助事業(通称、サポイン事業)に関わる試験研究費を計上したためです。しかしながら当事業に関しては、試験研究費に対して満額の助成金が支給され、これを営業外収益として計上しているため、経常利益には影響はありません。

売上高 (百万円)

	2012年3月期 第2四半期累計		2011年3月期 第2四半期累計
	実績	伸び率	実績
ネットシェイプ	2,640	5.4%	2,506
金型	2,070	△2.5%	2,123
精密鍛造品	570	49.3%	382
アッセンブリ	2,455	62.6%	1,510
フィルタ	630	23.6%	509
連結計	5,726	26.5%	4,526

*百万円未満は切り捨て

損益 (百万円)

	2012年3月期 第2四半期累計		
	売上高	経常利益	利益率
ネットシェイプ	2,640	2	0.1%
アッセンブリ	2,455	160	6.5%
フィルタ	630	84	13.3%
連結計	5,726	247	4.3%

	2011年3月期 第2四半期累計		
	売上高	経常利益	利益率
ネットシェイプ	2,506	49	2.0%
アッセンブリ	1,510	68	4.5%
フィルタ	509	35	6.9%
連結計	4,526	153	3.4%

*百万円未満は切り捨て

Q タイの洪水の影響および通期の見通しについて教えてください。

A 洪水の被害は現時点で確定することができず、通期の業績見通しへの影響が懸念されます。

通期の業績見通しにつきましては、当初は東日本大震災の影響により、当社グループの主要顧客業界が甚大な被害を受けたため、業績予想を合理的に算定することが困難であり、今年6月時点まで未定としておりました。その後、自動車産業における復旧状況にメドが立ったことを受けて、第1四半期の決算発表時に今期の通期見通しを下記のとおり発表しております。

通期業績予想(連結) (百万円)

	2012年3月期		2011年3月期
	予想	伸び率	実績
売上高	12,500	21.3%	10,301
売上総利益	2,395	9.8%	2,181
販売管理費	1,515	2.5%	1,478
営業利益	880	25.1%	703
営業外損益	80	—	21
経常利益	800	17.4%	681
当期純利益	500	0.8%	495

*通期の業績予想は、タイにおける大規模な洪水発生の影響を織り込んでおりません。当社の業績に重大な影響が生じることが判明した場合は、速やかにお知らせします。

中期経営計画の進捗状況

戦略① 海外展開の強化

●ネットシェイプ事業

来期よりタイにおいてスクロール鍛造品の量産開始を予定

●アッセンブリ事業

素材、部品加工の現地調達に向けた取り組みを展開

●フィルタ事業

THAI SINTERED MESH CO., LTD.にてフィルター製品の生産と販売体制を強化

戦略② 技術開発による新市場の開拓

●ネットシェイプ事業

小型発電用ローター部品の工法開発を進め、戦略的基盤技術高度化支援事業(通称、サポイン事業)として認可

●アッセンブリ事業

欧州の次世代規制「ユーロ6」対応など試作部門の強化

●フィルタ事業

新製品オゾン分解フィルターの顧客開拓営業に注力

戦略③ 顧客満足度向上による競争力の強化

●ネットシェイプ事業

生産および技術部門でリードタイム短縮プロジェクトを展開

●アッセンブリ事業

表面処理加工における正味加工時間削減に挑戦

通期の連結業績見通しは、売上高125億円(前年同期比21.3%増)、営業利益8億8千万円(前年同期比25.1%増)、経常利益8億円(前年同期比17.4%増)、当期純利益5億円(前年同期比0.8%増)と見込んでおります。

なお、この業績見通しは、タイの洪水による影響を織り込んでおりません。今回の洪水により、当社グループの業績に重大な影響が生じることが判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

Q

中期経営計画の進捗について教えてください。

A

スクロール鍛造品の海外量産体制や、サポイン事業の認可など着実に成果を出しています。

当社グループは今期より、中期経営計画に基づき「海外展開の強化」「技術開発による新市場の開拓」「顧客満足度向上による競争力の強化」の3つの戦略を全社的に展開しています。

海外展開の強化については、ネットシェイプ事業において、タイにおけるスクロール鍛造品の量産開始を予定しております。スクロール鍛造品に関しては、カーエアコン用コンプレッサーメーカーの海外進出に伴い、今後、新興国での需要増加が予想されます。この需要に対応するため海外での生産体制を強化し、来期よりターボチャージャー部品の生産拠点NICHIDAI (THAILAND) LTD.にて、スクロール鍛造品の量産を開始する予定です。当社は、スクロール鍛造品の量産を手始めに、ネットシェイプ事業の海外展開をさらに進めてまいります。またアッセンブリ事業においても、素材・部

品加工の現地調達に取り組んでおります。

技術開発による新市場の開拓については、ネットシェイプ事業において進めている小型発電用ローター部品開発が、経済産業省よりサポイン事業として認可されました。サポイン事業の認可対象は、省エネや環境対応などで優れた技術であり、当社は精密鍛造によるコスト削減力を評価されました。試作に取り組む小型発電用ローター部品は、今後ハイブリッド車などのエコカーや小型発電機などへの採用が想定されます。

顧客満足度向上による競争力の強化においては、ネットシェイプ事業でリードタイム短縮を目的とするプロジェクトを立ち上げ、生産及び技術部門でのプロセス見直しによる効率化推進に取り組んでいます。

中期経営計画については、今後も随時ご報告してまいります。(10～11ページ「中長期的な成長に向けたニチダイの取り組み」に、自動車産業の動向と当社グループの中期経営計画の施策との関係をまとめてあります。併せてご覧ください)



ただ、タイにおける大規模洪水の影響を受けて、今後の経営環境は極めて不透明な状況にあります。当社グループは現在、情報収集と状況分析に鋭意努めており、業績に重大な影響が見込まれる場合は、速やかにご報告します。

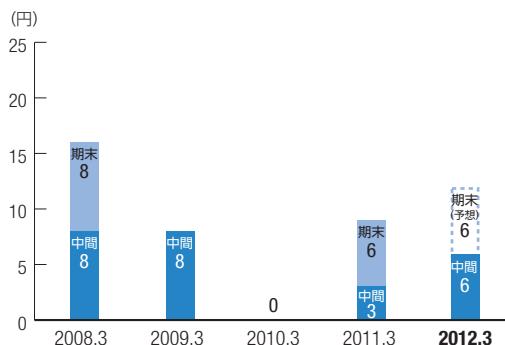
こうした状況ではありますが、当社グループは中期経営計画を着実に実行し、一段上のステージを目指す所存です。株主の皆さまには、当社グループの現況をご理解賜りますとともに、今後の発展にご期待いただきますようお願い申し上げます。

Q 配当について教えてください。

A 上半期の好業績を受けて、第2四半期6円の配当とさせていただきます。

上半期では、東日本大震災の影響はあったものの、次なる成長ステージを目指して、ほぼ想定どおりのスタートを切ることができました。これを受けて、今期の配当につきましては、第2四半期6円、期末配当6円の、1株当たり年間12円を予定しております。

1株当たり配当金



顧客業界の動きを先取りした 製品・技術開発で成長を目指します。

自動車業界の開発トレンド



今後の自動車業界は、中国やインドなどを中心とする新興国市場で急成長が見込まれる一方、省資源や環境意識への高まりに対応するためパワートレインの多様化が進みます。

当社グループでは、自動車産業と関連の深いネットシェイプ事業とアッセンブリ事業において、トレンドに沿った製品技術ラインナップをそろえるとともに、海外展開の推進によって各国・各地域のニーズに対応していきます。

当社グループの取り組み



ネットシェイプ事業

スクロール鍛造品の海外生産を開始

スクロール鍛造品は、カーエアコン用コンプレッサーの性能を左右する重要部品です。小型化、高効率化、軽量化、電動化のカギとなるコンプレッサーにスクロール鍛造品を使ったカーエアコンは今後、新興国を中心に大幅な需要拡大が見込まれており、コンプレッサーメーカーは、東南アジアで生産を増強する動きがあります。



ネットシェイプ事業

ネットシェイプ技術を活かした技術・部品開発

次世代自動車として期待されるハイブリッド車は、日本や北米を中心に普及しつつあります。当社のネットシェイプ事業では、この動きに対応した技術開発に取り組んでいます。

その一例が、ネットシェイプ技術を用いた、ハイブリッド車向け小型発電用ローター部品の工法開発です。現在、この部品は主に鍛造で加工されていますが、ネットシェイプによる精密鍛造への工法転換でコスト低減が期待できます。なお、この新工法開発は、経済産業省より戦略的基盤技術高度化支援事業(通称、サポイン事業)として認可*を受けています。



アッセンブリ事業

VGターボチャージャー部品の生産拡充

ディーゼル車の普及率が高い欧州では、2015年に次世代規制「ユーロ6」の導入が予定されています。より厳しくなる環境規制に対応するクリーンディーゼル車に必須となるのがVGターボチャージャーです。

このVGターボチャージャー部品の組み立てを行うアッセンブリ事業では、今後の需要増加に対応するために、タイの生産拠点を

開発 → 設計 → 製造 → 営業 → 部品製造

この市場の動きに対応して、当社は、タイのバンコク近郊に立地する海外子会社NICHIDAI (THAILAND) LTD. (以下、NDT)にて、スクロール鍛造品の量産開始を予定しております。2012年10月の量産開始に向けて、NDTの工場拡張など3年間で10億円の投資を行い、2013年度3億円、2014年度9億円の売上高を見込んでいます。



カーエアコン用スクロール部品

開発 → 設計 → 製造 → 営業 → 部品製造

その他、当社の技術・開発本部では、部品軽量化に貢献する中空部品の開発など、省資源や燃費向上など自動車業界における開発トレンドに沿ったさまざまな技術開発に挑戦しています。

*平成22年度戦略的基盤技術高度化支援事業委託業務
委託元：近畿経済産業局
事業管理機関：鍛造技術開発協同組合



ハイブリッド車向け
小型発電用ローター部品

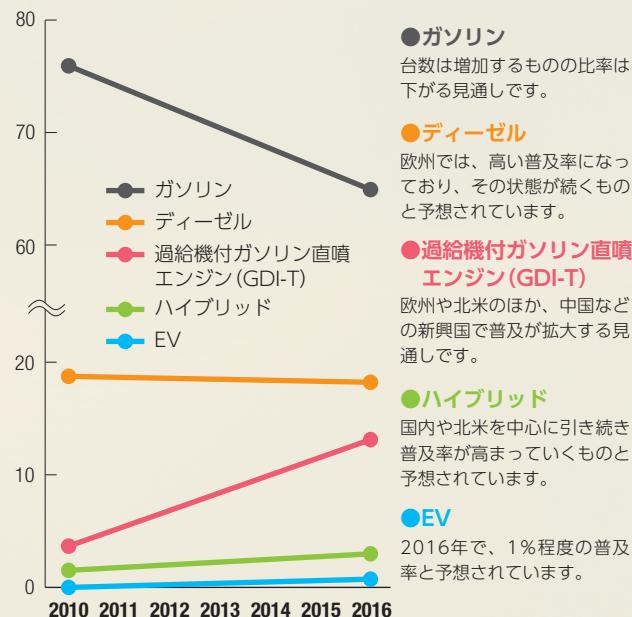
NDTの生産体制を拡充するとともに、規制強化に対応した次世代製品の開発を推進しています。



VGターボチャージャー部品

全世界のエンジン普及率 予測グラフ

生産比率 (%)



出典：IHS Automotive「自動車産業予測レポート 2011-2016」(2010年12月発行)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科 目	前第2四半期 連結会計期間末	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2010年 9月30日現在	2011年 9月30日現在	2011年 3月31日現在
(資産の部)			
流 動 資 産			
現金及び預金	1,491	1,905	1,697
受取手形及び売掛金	2,520	2,965	3,105
1 たな卸資産	1,366	1,851	1,563
その他	160	238	181
貸倒引当金	△ 3	△ 3	△ 4
流 動 資 産 計	5,534	6,956	6,543
固 定 資 産			
有形固定資産	5,045	4,956	4,931
無形固定資産	79	114	99
投資その他の資産	799	777	796
固 定 資 産 計	5,924	5,848	5,826
資 産 合 計	11,459	12,805	12,370

*百万円未満は切り捨て

(単位:百万円)

負債及び純資産の部 科 目	前第2四半期 連結会計期間末	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2010年 9月30日現在	2011年 9月30日現在	2011年 3月31日現在
(負債の部)			
流 動 負 債			
2 買掛金	503	973	881
短期借入金	1,958	1,790	2,216
3 1年内償還予定の社債	—	1,000	—
未払法人税等	39	87	60
賞与引当金	173	201	132
その他	382	467	502
流 動 負 債 計	3,057	4,520	3,793
固 定 負 債			
3 社債	1,000	—	1,000
長期借入金	745	1,144	550
退職給付引当金	27	44	33
その他	58	61	45
固 定 負 債 計	1,831	1,250	1,628
負 債 合 計	4,888	5,771	5,422
(純資産の部)			
資本金	1,429	1,429	1,429
資本剰余金	1,192	1,192	1,192
利益剰余金	3,762	4,191	4,096
為替換算調整勘定	△ 100	△ 128	△ 106
その他	5	3	7
少数株主持分	280	344	328
純 資 産 合 計	6,570	7,034	6,948
負 債・純 資 産 合 計	11,459	12,805	12,370

*百万円未満は切り捨て

CHECK POINT

1 たな卸資産の増加

売上高の増加に伴い、原材料・仕掛品などが増加しました。

2 買掛金の増加

売上高の増加に伴い、増加しました。

3 社債の減少および流動負債の増加

1年内償還予定の社債を流動負債に計上しました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前連結会計 年度
	2010年4月1日から 2010年9月30日まで	2011年4月1日から 2011年9月30日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	4,526	5,726	10,301
4 売上原価	3,661	4,696	8,120
売上総利益	864	1,029	2,181
販売費及び一般管理費	706	752	1,478
営業利益	158	277	703
営業外収益	45	76	52
営業外費用	50	106	74
経常利益	153	247	681
特別利益	0	—	0
特別損失	2	2	64
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	150	244	616
法人税、住民税及び事業税	32	78	62
法人税等調整額	△ 27	△ 9	△ 3
少数株主損益調整前 四半期(当期) 純利益	146	175	557
少数株主利益	11	26	61
四半期(当期) 純利益	134	149	495

*百万円未満は切り捨て

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前連結会計 年度
	2010年4月1日から 2010年9月30日まで	2011年4月1日から 2011年9月30日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
5 営業活動による キャッシュ・フロー	105	382	514
6 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 123	△ 245	△ 358
財務活動による キャッシュ・フロー	108	96	129
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 12	△ 25	△ 2
現金及び現金同等物の 増減額(△減少額)	77	207	283
現金及び現金同等物の 期首残高	1,060	1,344	1,060
現金及び現金同等物の 四半期末(期末) 残高	1,138	1,552	1,344

*百万円未満は切り捨て

CHECK POINT

4 売上原価の増加

材料費比率の高いアッセンブリ事業の売上高構成比率が33.3%から42.9%に高まったため、材料費比率が上昇しています。

5 営業活動によるキャッシュ・フローの増加

前年度は売上高増に伴い売上債権が増加、今年度は売上債権が減少した影響が出ています。

6 投資活動によるキャッシュ・フローの減少

前年度に設備投資を抑制していた影響によるものです。

■ 国内の主要な事業所 (2011年9月30日現在)

本社

京都府京田辺市薪北町田13

宇治田原工場

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

熊谷営業所

埼玉県熊谷市桜木町2-88

浜松営業所

浜松市中区高丘西1-10-20

名古屋営業所

名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル

京都営業所

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

岡山営業所

岡山市北区辰巳22-103 TCKビル



本社



宇治田原工場

■ 関連会社 (2011年9月30日現在)

① ニチダイフィルタ株式会社

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

② ニチダイプレシジョン株式会社

京都府京田辺市薪北町田13

③ NICHIDAI (THAILAND) LTD.

Amata Nakorn Industrial Estate Phase 8 700/882 Moo 5 TB.
Nhongkakra Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand

④ THAI SINTERED MESH CO., LTD.

Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo 5, Tambol Pasak,
Amphur Muang Lamphun 51000 Thailand

⑤ NICHIDAI U.S.A. CORPORATION

15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA

⑥ NICHIDAI ASIA CO., LTD.

Amata Service Center Building Room 206/1 FL.2 700/2 Moo 1,
Tambon Klongtamru, Amphur Muang, Chonburi 20000 Thailand

● ネットシェイプ事業 ● アッセンブリ事業 ● フィルタ事業



① ニチダイフィルタ株式会社



② ニチダイプレシジョン株式会社



③ NICHIDAI (THAILAND) LTD.



④ THAI SINTERED MESH CO., LTD.

■ 会社概要 (2011年9月30日現在)

社名 (英文表記)	株式会社ニチダイ NICHIDAI CORPORATION
証券コード	6467
本社所在地	京都府京田辺市新北町田13
創業年月日	1959年5月5日
設立年月日	1967年5月1日
資本金	14億2,992万円
従業員数	478名

■ 役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役社長	古屋 元伸	
取締役	瀬川 秀実	営業本部本部長 NICHIDAI ASIA CO., LTD. 社長 NICHIDAI U.S.A. CORPORATION 社長
取締役	島崎 定	部品部ゼネラルマネージャー ニチダイプレジジョン株式会社代表取締役社長 NICHIDAI (THAILAND) LTD. 社長
取締役	畑中 恵二	生産本部本部長、技術・開発本部本部長
取締役	辻 寛和	管理本部長、経営企画室長
監査役(常勤)	萩野 雅章	
監査役	刈谷 敏彦	
監査役	溝上 哲也	

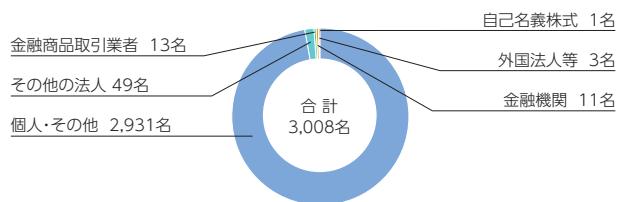
■ 株式の状況 (2011年9月30日現在)

発行可能株式総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,053,300株
単元株式数	100株
株主数	3,008名

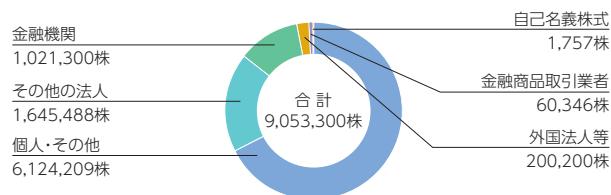
■ 大株主 (2011年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78%
ニチダイ従業員持株会	499,444	5.51%
田中克尚	497,688	5.49%
中棹知子	282,600	3.12%
古屋啓子	272,600	3.01%
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.40%
大阪中小企業投資育成株式会社	174,000	1.92%
ピーイーフォーファイティエーロープライズストックファンド	150,000	1.65%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	120,000	1.32%
株式会社京都銀行	117,600	1.29%

■ 所有者別分布 (2011年9月30日現在)



■ 所有者別株式数分布 (2011年9月30日現在)



事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の 三菱UFJ信託銀行株式会社
口座管理機関

同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL.0120-094-777 (通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

公告方法 電子公告
当社ホームページ (<http://www.nichidai.jp/>)
にて掲載

単元株式数 100株

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介 <http://www.nichidai.jp/>

ニチダイへの理解を深めていただくために、ホームページをご活用ください。



アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函頂きますようお願いいたします。

今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。



株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION
本社 TEL. (0774) 62-3481 (代)